



東中学校だより(4) 令和3年5月25日

# 麓あかくそびえて建てり 校歌の一節より

佐久市立東中学校

〒385-0007 佐久市新子田 1396-1

Tel. 67-2392



## 地域の方々に見守られている東中生

先日、地域の方から学校に一本の電話がありました。本校生徒の自転車の乗り方をご指摘いただく内容でした。自動車がおる大きな通りにわき道から急に飛び出してきた東中生がいたという内容でした。何かあってからでは遅いことですので、大変有り難いご指摘でした。翌日、「教師」から生徒たちに語りかけました。「誰が一番悲しみますか?」「注意一秒 けが一生」と。

オクレンジャーで「保護者」の皆さんにも交通安全等の注意喚起をさせていただきました。そして今回、東中は「地域の方々」という大人にも見守られていることを深く感じました。心強い限りです。「保護者」「地域の方々」といった多くの大人が未来ある子どもたちを見守り、時にはご指導・ご指摘いただけることをこの場をかりて感謝申し上げます。



〈交通事故が起きて「誰が一番悲しみますか?」〉



〈自転車で行く東中生〉

ところで、長野県は信号機のない横断歩道で歩行者がいる場合、車の一時停止する割合が全国1位だそうです。JAF・日本自動車連盟の調査では、長野県の車の一時停止率は68.6%。全国平均の17.1%を大きく上回り、2位の静岡にも差をつけ全国1位だそうです。なぜ長野県のドライバーは一時停止するのかははっきりしませんが、「手を挙げる」「軽くお辞儀をする」といったマナーを実践している人が多いことも関係していると言われています。先日、本校の交通安全の係が調査した結果、「横断歩道でお辞儀をしている東中生」は98%だということが分かりました。学校教育目標の4つの重点の中の「他者への思いやり」とも関連しているようです。

「横断歩道でお辞儀をしている東中生」ならば、交通事故が起きてしまったら「誰が一番悲しみますか?」は誰が教えなくても分かっていることではないでしょうか。「注意一秒 けが一生」は自分のためだけのスローガンではないようです。

## 保護者ととともに母校の清掃 ～1学年PTA作業～



5月22日の土曜日に1学年のPTA作業を行っていただきました。冒頭、1学年PTA代表の原さんは「いい汗を流しましょう!」とおっしゃられ、保護者の皆さま、1年生、教職員が“東中”のために汗を流しました。

東中の教育理念として「流汗悟道」があります。本校は、開校当時から地域の方々の尊い汗が流されてきました。校庭整地のための勤労奉仕、校庭美化のための一戸一木寄進植樹、これらの活動に「自分たちの手で…」と汗してくださった保護者や地域の方々の思いを忘れることがないように



「流汗悟道」の言葉が学校の教育理念として掲げられるようになったと聞いています。

校長先生は最後に「大人の力はすごい。計画を見てすぐ理解し実施する。大人はとる草の量が違う。大人を見て多くのことを学びましたね。これからは活かしてください」と語られました。大人の「いい汗」は、1年生の中に「自分たちの手で…」の精神として引き継がれたように思いました。

